

都市再生整備計画 フォローアップ報告書

環状2号線周辺地区

平成31年 3月

東京都港区

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	地区計画の策定面積割合	%	14.1	19.9	23.9	確定 ● 見込み ○	○	あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	引き続き計画的な民間開発を誘導していく。
指標2	環境施策対応道路の割合	%	2.4	10.6	10.8	確定 ● 見込み ○	○	あり なし	10.8	H30年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	目標値を上回る、事業量を実施することができた。
指標3	放置自転車の台数	台	486	270	172	確定 ● 見込み ○	○	あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	自転車走行空間整備等を拡充し、自転車のネットワーク化を図る。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	保水性舗装の気温逓減率	℃	-	/	約1℃低減	確定 ● 見込み ○	/	/		H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	歩行者にとって快適でうるいおいある歩行者空間が創出された。
その他の数値指標2			/	/	/	確定 ● 見込み ○	/	/		H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3			/	/	/	確定 ● 見込み ○	/	/		H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	エリアマネジメント活動の推進	・活動団体を都市再生推進法人に指定した ・都市再生整備計画における道路占用許可の特例を位置付けした	道路占用による店舗等の設置により、にぎわいある空間が継続して創出されることとなった。	更なる地区内の活気、にぎわいの創出が求められる。
	街並み再生地区を活用した民間開発の計画の誘導	・引き続き、環状第二号線沿道新橋地区 街並み再生方針活用の手引きの周知を行った。 ・計画事前相談における適切な指導、誘導の実施	-	課題解決に寄与する民間計画が推進するよう、引き続き周知を行っていく必要がある。
	継続的な保水性舗装への散水	・保水性舗装に対する路面散水の実施 ・路面温度の低減効果が継続するような道路の維持管理	路面温度が低減する舗装の面的な整備等により、歩行者の回遊性の向上や、快適でうるおいのある歩行空間の確保が図られた。	保水性舗装は、定期的な散水がないと路面温度の低減効果が低下するため、天候に左右されることなく、効率的かつ経済的に散水をするのが課題となっている。
改善策	エリアマネジメント活動範囲の拡大	・都市再生整備計画における道路占用許可の特例を位置付けした。また、その範囲を従前よりも拡大した。	範囲を拡大したことで、より広い範囲でにぎわいある空間を創出することが可能となった。	範囲は拡大されたが、それに伴うにぎわい施設の設置が進んでいないエリアもあり、まちづくりと合わせたにぎわい空間の創出が課題である。
・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	自動車駐車場の配置	小規模敷地の低層階におけるにぎわい創出と、駐車場の付置義務による駐車施設の配置の両立が課題であり、駐車場の集約に関する検討を進めている。	-	駐車場の集約化に向け、条例等の整理、検討を進めている。
	自転車走行空間整備等によるネットワークの整備	・自転車走行空間の整備(予定)	自転車走行空間の整備により、ネットワークが広ががり、回遊性の向上につながる。	さらなる回遊性の向上を目指し、需要に応じて自転車シェアリングポートの増設や自転車走行空間の整備を合わせて行っていく必要がある。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項